

## 資質・能力を育むために ～令和の日本型学校教育に向けて～

### これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領<sup>5</sup>では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点であり、資質・能力を育むことが授業の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育てていく必要性があります。

5【学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまともに見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校学習指導要領総則第3-1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

また、令和3年1月に中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育<sup>6</sup>』」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）では、学習指導要領に示す、誰一人取り残すことのない持続可能な社会の創り手の育成をめざし、そのツールとしてのICTを基盤としながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がセットで重視されています。児童生徒一人ひとりの興味関心や発達の状況等を踏まえて、それぞれの個性を伸ばし資質・能力を高めつつ、学級集団や学習集団において、子ども同士や子どもと教師、子どもと地域の方々など、多様な他者との関わりを通して、よりよい学びを創り出すために、学び合い、高め合う関係性を大切にできるような授業づくり・学級づくりを目指していきます。

---

6 社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中、子供たちの資質・能力を確実に育成する必要があるためには、新学習指導要領の着実な実施が重要であるとした。その上で、我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」とした。ここでは、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

（「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）より）

このようなことから、学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成30年度までの、A問題【主として知識】、B問題【主として活用】を問う設問構成から、これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと平成31年度から変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。「知識」と「活用」はそれぞれ分かれて育成されるのではなく、知識を活用した学習を通して知識の定着や知識理解の深まりが図られると考えます。つまり、知識と活用が相互に関連し合いながら資質・能力が育成されていきます。学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能をいかに活用させて「生きて働く知識・技能」を培うかが求められています。

## 調査結果 小学校 国語

### 令和5年度 調査結果 小学校【国語】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体		14	<b>63</b>	-4.2	66.0	67.2	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	5	66.4	-4.8	70.1	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	61.5	-1.9	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	68.1	-4.5	70.4	72.6
		B 書くこと	1	22.2	-4.5	25.6	26.7
		C 読むこと	3	65.5	-5.7	70.4	71.2

### 令和4年度 調査結果 小学校【国語】

分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体		14	<b>55</b>	<b>-10.6</b>	65	65.6	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	53.2	<b>-15.8</b>	65.6	69
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	68.6	-9.3	73.2	77.9
	思考力、判断 力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	62.1	-4.1	66.3	66.2
		B 書くこと	2	39.0	-9.5	47.9	48.5
		C 読むこと	4	58.4	-8.2	69.5	66.6

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

## 調査結果 中学校 国語

令和5年度 調査結果 中学校【国語】							
分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体		15	<b>64</b>	-5.8	70	69.8	
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	2	53.8	-13.7	66.3	67.5
		(2) 情報の扱いに関する事項	2	58.7	-4.7	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.0	-3.7	71.7	74.7
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	79.9	-2.3	82.5	82.2
		B 書くこと	2	57.8	-5.4	64.6	63.2
		C 読むこと	4	59.3	-4.4	64.2	63.7

令和4年度 調査結果 中学校【国語】							
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体		14	<b>64</b>	-5.0	<b>69</b>	<b>69.0</b>	
学習指導要領の領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	6	66.2	-6.0	72.3	72.2
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	36.6	-9.9	43.7	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	68.0	-2.2	70.5	70.2
	A 話すこと・聞くこと	A 話すこと・聞くこと	3	57.9	-6.0	65.1	63.9
		B 書くこと	1	36.6	-9.9	43.7	46.5
		C 読むこと	2	65.8	-2.1	69.9	67.9

## 調査結果 小学校 算数

令和5年度 調査結果 小学校【算数】						
分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>58</b>	-4.5	63.0	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.5	-5.8	67.1	67.3
	B 図形	4	46.1	-2.1	50.0	48.2
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	66.6	-4.3	72.3	70.9
	D データの活用	3	59.6	-5.9	65.2	65.5

## 令和4年度 調査結果 小学校 【算数】

分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>55</b>	-8.2	64	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.4	-8.4	69.4	69.8
	B 図形	4	57.6	-6.4	64.9	64.0
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	43.7	-7.6	53.3	51.3
	D データの活用	3	58.7	-10.0	69.5	68.7

## 調査結果 中学校 数学

## 令和5年度 調査結果 中学校【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		15	<b>43</b>	-8.0	52	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	53.5	-9.5	65.2	63.0
	B 図形	3	24.4	-8.8	36.1	33.2
	C 関数	4	45.3	-5.9	51.7	51.2
	D データの活用	3	43.6	-4.9	47.4	48.5

## 令和4年度 調査結果 中学校 【数学】

分類	平均正答率(%)	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	<b>45</b>	-6.4	53	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	46.4	-11.0	57.9	57.4
	B 図形	3	37.9	-5.7	45.6	43.6
	C 関数	3	41.9	-1.7	46.0	43.6
	D データの活用	3	53.2	-3.9	57.8	57.1

## 調査結果 中学校 英語

## 令和5年度 調査結果 中学校【英語】

分類	区分	対象問題数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		17	<b>41</b>	-4.6	50	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	53.8	-4.6	62.5	58.4
	(2) 読むこと	6	47.2	-4.0	55.7	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0				
	(4) 話すこと [発表]	0				
	(5) 書くこと	5	16.9	-6.5	29.5	23.4

# 平成31年度 調査結果 中学校【英語】

分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県 (公立)	全国 (公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		21	<b>53</b>	<b>-3.0</b>	<b>59</b>	<b>56.0</b>
学習指導要領の領域	聞くこと	7	<b>66.1</b>	<b>-1.8</b>	<b>70.1</b>	<b>67.9</b>
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	<b>52.0</b>	<b>-3.8</b>	<b>57.4</b>	<b>55.8</b>
	書くこと	8	<b>43.0</b>	<b>-2.8</b>	<b>49.7</b>	<b>45.8</b>

【参考】各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意。

〈出典〉令和5年度全国学力・学習状況調査 報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)

## ◇ 国語について

ここ数年課題とされている「書くこと」について分析していきます。

### 【小学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			○	22.2	-4.5	7.4

### 【中学校】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	○			46.2	-8.1	1.1
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる			○	69.4	-2.7	9.4

**問題 小学校 1 二**

【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く

この問題の趣旨は、「グラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」ことです。伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを考えることが大切です。本設問では、5枚のカードの情報と情報との関係を捉えて整理し、目的に応じて必要な情報を選び出す必要があります。さらに、グラフから「学校の田んぼの雑草の量」の変化に着目し、「雑草の量が増え続けている」という学校の米作りの問題点をおさえた上で、その解決方法についての自分の考えを述べる必要があります。誤答の中には、グラフと【カード④】のいずれかの情報しか取り上げていないために条件を満たしていない解答や、グラフから「農家も雑草が生えている」等、農家に着目し、学校の米作りの問題点を書いていない解答がありました。何について問われているのかをはっきりさせ、情報と情報との関係を整理することが必要です。

**問題 中学校 3 一**

レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する

**問題 中学校 3 四**

『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く

問題番号3一の趣旨は、「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える」こと、問題番号3四の趣旨は「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことです。この問題では具体と抽象など、ある情報と他の情報との関係について理解する必要があります。具体と抽象の関係を理解するには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要です。例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを身の回りの事例と結び付けながら捉えるよう、事例を取り上げて指導をすることが大切です。

また、自分の考えが伝わる文章にするためには、伝えたい自分の考えを精選し明らかにすること、考えとのつながりが明確な具体例を選択する等、考えを支える根拠となる具体例を選ぶこと、示した具体例からなぜその考えが導き出せるのかが分かるように、自分の考えと根拠を書くことが必要です。

これまで「書くこと」が課題として挙げられてきましたが、令和5年度においては、小学校、中学校において改善が見られ、自分の考えを持ち、表現する（書く）という設問に対して答えることができる児童・生徒が増えてきていることが伺えます。

校種や、設問内容が意図している目的によって変わりますが、「書くこと」は、誰に・何を報告するのかといった目的を明確にした上で、理由や事例を挙げて自分の考えをまとめ



て書くこととなります。

どちらの問題にも共通している点は、まずは、「自分の考えをもつ」こと、そして「書く」という流れで、自分の感じたことや、考えたことを表現していくことです。さらに、なぜそうなのか、根拠をはっきりとさせておくことも必要です。

「書く」ためには、思考しなければなりません。思考をして表現するという過程があります。つまり、書くためには、「自分の考えをもつ」ということが大事になってきます。また、子どもたちの「考え」の基盤は、自らの生活経験が大部分を占めます。学校教育活動をはじめとして、家庭や地域における体験活動や生活経験を大切に、児童・生徒が自分の考えや世界観を広げられるようにすることが大事となります。

さらに、「書く」ためには、「何が書かれているか」という内容を整理して読み取るとともに、「どのように書かれているか」という表現面にも着目して読むことが大切です。物語全体を捉えられるようにし、着目した複数の叙述を基に考えたことを共有し交流する場面を設定することを通して、理解し想像する力をつけていくことが大切です。

## ◇ 算数・数学について

ここ数年課題とされている「数と計算」「数と式」について分析していきます。

### 【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 $50 \times 40$ を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかをみる		○		74.4	-6.4	1.7
3 (1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	( ) を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかをみる	○			66.7	-3.6	1.5
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかを判断できるかをみる			○	48.5	-8.2	5.9
3 (3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかをみる		○		67.0	-5.4	3.0
3 (4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数) $\div$ (1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかをみる	○			42.6	-5.0	4.7
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかをみる		○		69.5	-6.2	4.9



## 【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	○			37.6	-8.5	0.0
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる		○		76.0	-4.5	4.5
6 (1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる		○		85.3	-3.6	2.1
6 (2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる			○	41.6	-17.2	9.3
6 (3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる			○	26.9	-14.0	25.3

## 問題 小学校3 (2)

3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する

この問題の趣旨は、「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる」ことです。1人分のファイルの長さを求め、その23人分の長さを求める求め方 $(1.4 + 1.6 + 2) \times 23 = 115$ や3種類のファイルごとに23人分の長さを求め、それらの合計を求める求め方 $1.4 \times 23 + 1.6 \times 23 + 2 \times 23 = 115$ を式や言葉を用いて記述する必要があります。ただ単に式と計算だけではなく、式の表す意味を考え、自分の考えを言葉にしなければなりません。また、計算して出てきた結果から、120cmの棚に並べることができるかどうかという条件の判断を行う必要もあります。基礎となる小数の加法や乗法の計算方法を繰り返し練習するだけではなく、日常生活の場面などから条件を設定した問題の練習や自分の立てた式の意味や考え方の説明をする機会をもつことが大切です。

## 問題 中学校 1

−5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ

この問題の趣旨は、「自然数の意味を理解している」ことです。この問題では数の集合を捉え直す必要があります。小学校算数においては、整数を0と正の整数を合わせたものとして捉えていたことを振り返り、中学校数学では、負の整数を加え、整数を正の整数（自然数）、0、負の整数と捉え直し、整数の意味について理解を深めることが大切です。

## 問題 中学校 6 (2)

はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる

この問題の趣旨は、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」ことです。ここでは、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できることを目標としています。この問題を解くためには、計算結果はいつでも3の倍数になるならば「 $3 \times (\text{整数})$ 」の形にすればよいという見通しを持って、式を変形できることが大切です。計算結果は、 $3n+6$ となり、 $3(n+2)$ の形に式を変形し、 $n+2$ は整数であるということを説明することで、計算結果はいつでも3の倍数になると証明することができます。

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに問題の条件を変えるなどして、発展的に考察することが大切です。そして、発展的に考察するためには、基本的な学習内容の定着が必要となってきます。

学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」のある授業を行うためには、数学的な見方・考え方を生かすことが必要です。数学的な見方・考え方とは、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、(論理的、)統合的・発展的に考えること」と明記されています。

算数科・数学科の授業においても「考えをもつことから書く」といった活動を中心に、「思考力・判断力・表現力」を育てていく必要性があります。前述したように、「書く」ためには、思考しなければなりません。よって、算数科・数学科についても、書くためには、自分の考えを持つということが大事になってきます。そして、自分の考えをもつための道具として、基本的な学習内容の定着は大切です。

◇ 英語について

## 【中学校 英語】

今年度は、「聞くこと」について分析していきます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○			82.4	3.4	0.0
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○			54.9	-9.5	0.3
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○			39.5	-10.3	0.0
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	○			58.9	-2.2	0.3
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	○			40.3	-0.9	0.3
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	○			46.9	-7.9	1.1

## 問題 中学校1 (3)

買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する

この問題の趣旨は「情報を正確に聞き取ることができる」ことです。

A: How about this bag with some stars on it? It's very popular.

B: It's nice! I'll take the bigger one.

本設問では、会話の中で、some stars on it でたくさんの星と聞き取れますが、the bigger one という情報を「より大きな星が1つあるバッグ」という誤った意味で聞き取ってしまうと考えられます。この one は代名詞 one の用法であり、1つのという意味ではありません。

学習指導においては、外国人指導者（FLT）やデジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れる活動や、意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたり音読したりする活動を行うことが大切です。また、文章と文章の関係の中で、代名詞が指しているものは何かとはっきりさせていくことで、より正確な理解につながります。

**問題 中学校 4**

水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する

この問題の趣旨は「社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる」ことです。

1～4の選択肢はすべて本文で読まれています。

1は話し手が説明する話題（There isn't enough water in Singapore.）

2は説明全体の主題（…doing something to save water is important.）

3・4は話題の例示（3: I take showers for only five minutes each time.

4: One of my friends uses rain water for the plants in his room.）

という関係性を捉えることに課題があると考えられます。

説明を聞いて要点を捉えることができるようにするためには、話題を把握した上で、主題とその具体例といった内容の構成を意識して情報を聞き取っていくことが重要であり、さらに聞き取った情報を比較し、話し手が最も伝えたいことを捉えることが大切です。また、学習指導に当たっては、内容の構成や内容の構成や要点を捉えるための手掛かりとなる語句や表現に着目することができるように指導していくことが必要です。

## ◇ 各教科における記述式問題について

国語科、算数科・数学科、英語科の分析を通して、引き続きの課題として挙げられるものとして「自分の考えをまとめて書く」があります。

単に「自分の考えをまとめて書く」だけでなく、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えを書く」問題や、「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えを書く」問題、「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」問題などがありました。

先を見通すことが困難な今日において、「自ら問題を見つけ、議論を通じ修正していく力」が必要になります。そして、「自分の考えを持つ」ためには、各教科における基礎・基本となる内容をしっかりと理解しておくことが大切です。

## 【小学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			○	22.2	-4.5	7.4
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			○	49.3	-6.9	7.9
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる			○	64.5	-5.7	12.8

## 【中学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる			○	64.8	-0.9	2.2
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる			○	69.4	-4.1	9.4
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる			○	46.8	-4.4	21.0

## 【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる			○	48.0	-7.5	3.2
2 (4)	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係に基づき面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる			○	25.4	4.6	5.2
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる			○	48.5	-8.2	5.9
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる			○	49.5	-6.7	15.0

## 【中学校 数学】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
6 (2)	はじめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる			○	41.6	-17.2	9.3
6 (3)	はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる			○	26.9	-14.0	25.3
7 (2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる			○	18.1	-15.5	21.9
8 (3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			○	38.7	-4.1	13.1
9 (1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			○	21.1	-11.0	24.3



## 【中学校 英語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率(%)
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる			○	18.1	-1.4	23.7
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる			○	5.3	-2.1	16.8

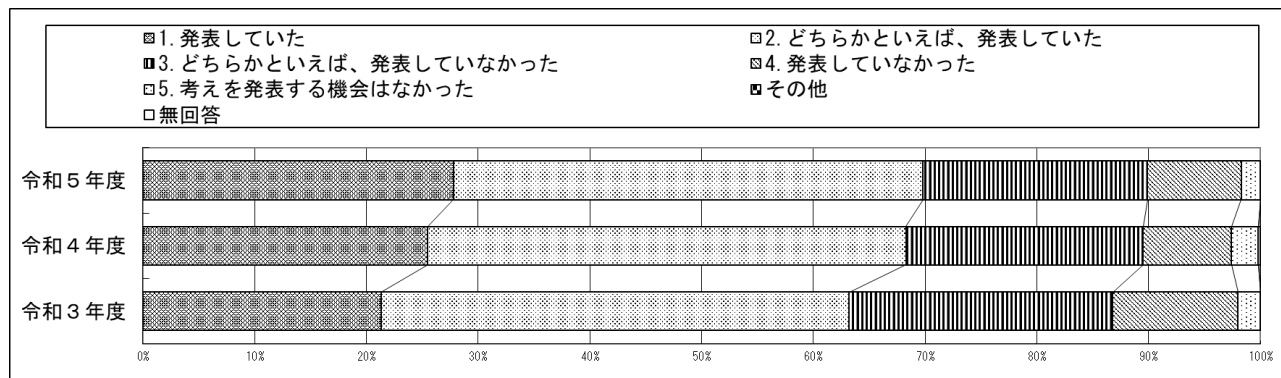
## 「考え」を発信する場や機会をもつために

上記の結果は、小学校・中学校における国語科と算数科・数学科・英語科の記述式の設問について示したものです。記述式の問題を解答するためには、「自分の考えを整理し、表現する」ことが大事です。全国的にも記述問題の正答率は低く、寒川町の児童・生徒も記述式問題を苦手としている児童・生徒が多いということが言えます。しかし、国語においては、小学校・中学校ともに無解答率が低く、自分の考えを記述することができる児童・生徒が見られます。自分の考えを書く手助けとしては、語彙数を増やすことや適切な言葉を使って表現する習慣が考えられます。語彙を増やすために、「言葉を使いたくなる状況」を授業の中で設定し、一つひとつ新しい言葉を足してあげていくということが重要です。また、日頃から繰り返し指導し、少しずつ「できる」という経験を積み重ねることで身につくことから、長い時間をかけて繰り返し行うことが大事です。

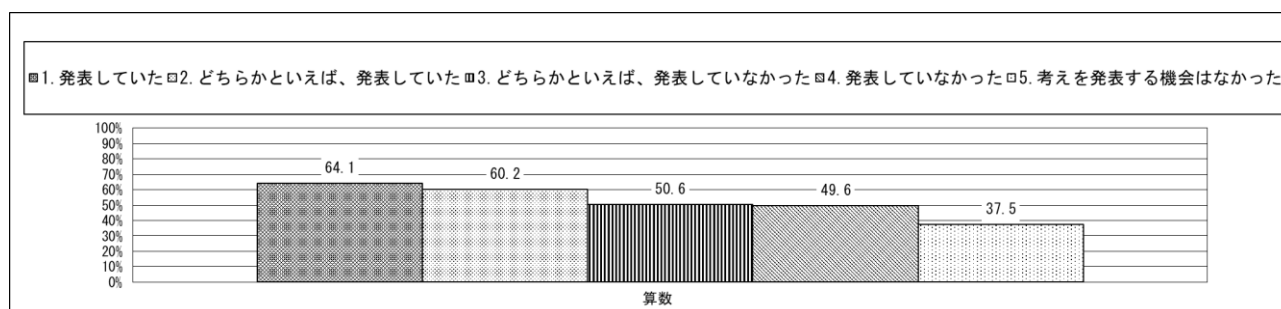
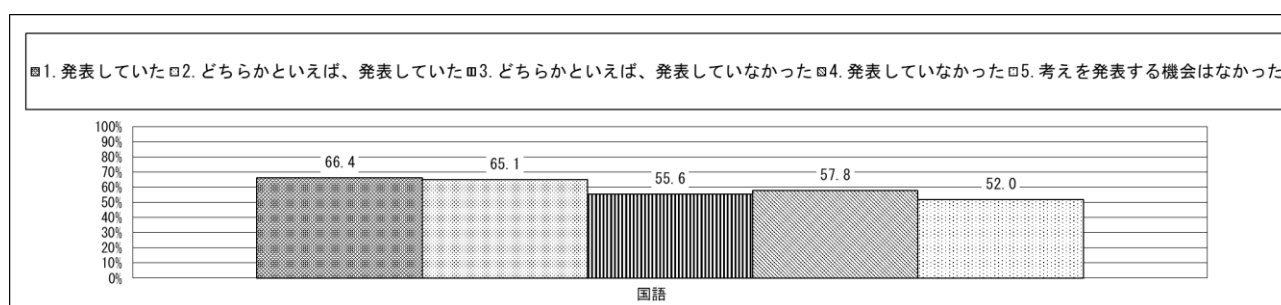
次の【児童質問紙(32)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか】及び中学校【生徒質問紙(36)「1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか】では、小学校、中学校共に年々増加の傾向が見られます。また、クロス集計からも、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表していた児童・生徒の方が、高い得点をとる傾向があります。このことから、授業の中で自分の考えをまとめ、伝わりやすく工夫して書き、相手に伝える活動が位置づけられていることが分かります。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(32)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	発表していた(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	27.8	42.0	20.1	8.4	1.7			69.8		0.0	0.0
令和4年度	25.5	42.8	21.2	7.9	2.4			68.3		0.0	0.2
令和3年度	21.3	41.9	23.6	11.2	2.0			63.2		0.0	0.0

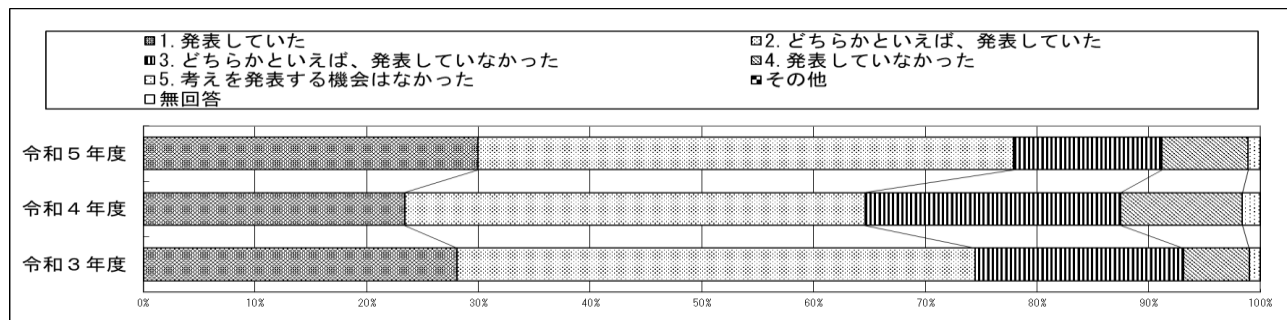


選択肢	児童数	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
			国語 (14問)	算数 (16問)
1 発表していた	113	27.8	66.4	64.1
2 どちらかといえば、発表していた	170	41.9	65.1	60.2
3 どちらかといえば、発表していなかった	82	20.2	55.6	50.6
4 発表していなかった	34	8.4	57.8	49.6
5 考えを発表する機会はなかった	7	1.7	52.0	37.5
その他 (選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	0	0.0	—	—
無回答	0	0.0	—	—

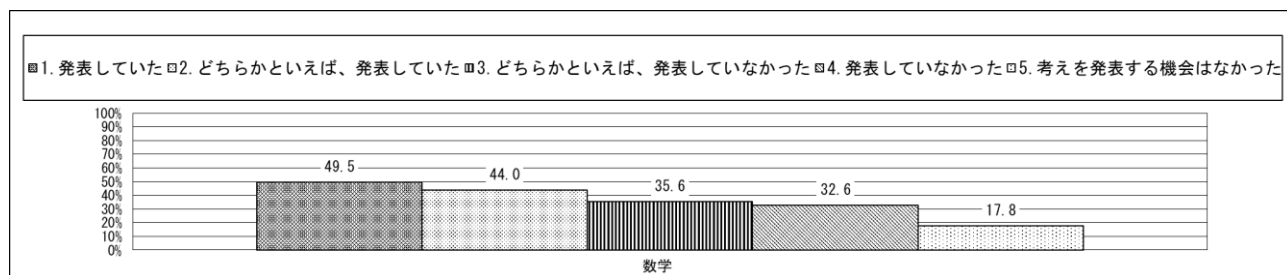
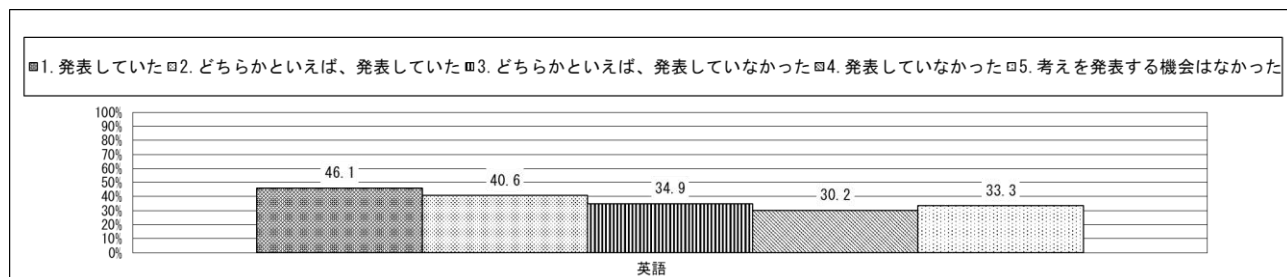
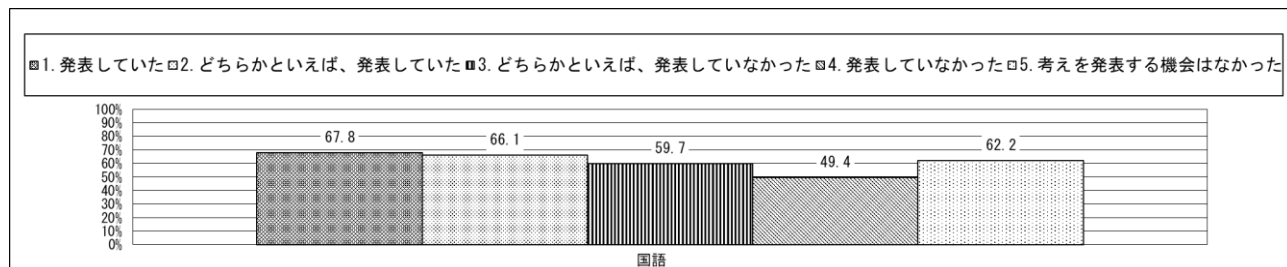


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(36)	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	発表していた(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	30.0	48.0	13.3	7.7	1.1			78.0		0.0	0.0
令和4年度	23.4	41.2	22.9	10.9	1.6			64.6		0.0	0.0
令和3年度	28.1	46.4	18.6	5.9	1.0			74.5		0.0	0.0



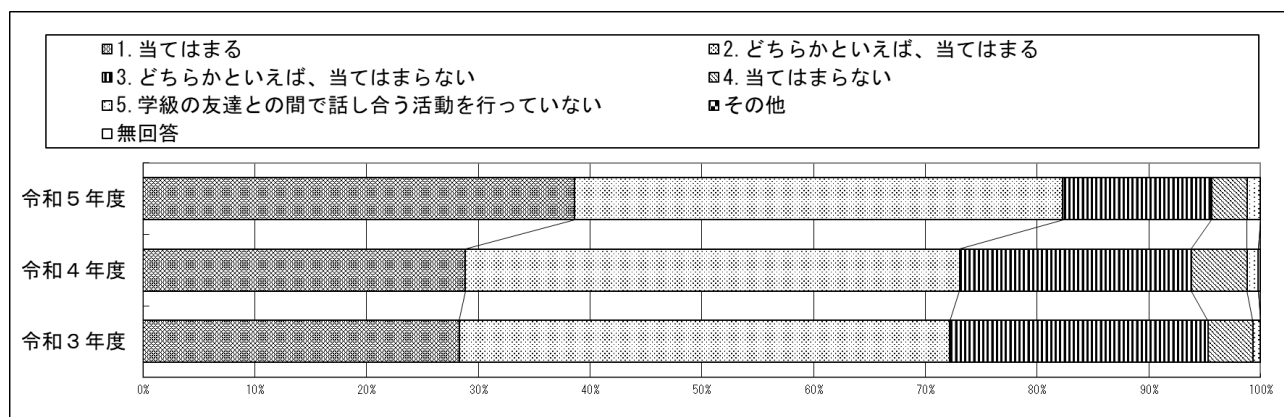
選択肢	生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語(15問)	数学(15問)	英語(17問)
1 発表していた	113	30.3	67.8	49.5	46.1
2 どちらかといえば、発表していた	178	47.7	66.1	44.0	40.6
3 どちらかといえば、発表していなかった	50	13.4	59.7	35.6	34.9
4 発表していなかった	29	7.8	49.4	32.6	30.2
5 考えを発表する機会がなかった	3	0.8	62.2	17.8	33.3
その他(選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	0	0.0	—	—	—
無回答	0	0.0	—	—	—



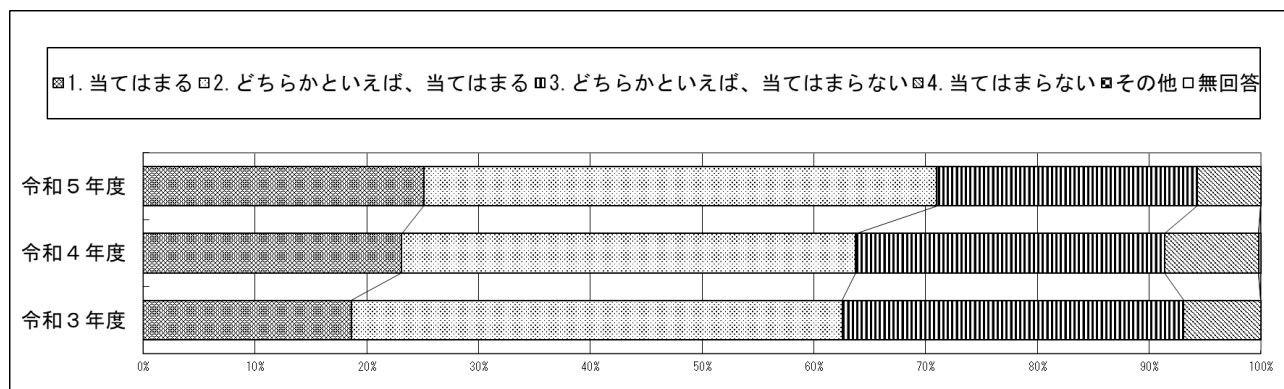
学習指導要領解説 総則編では、「言語能力を支える語彙の段階的な獲得も含め、発達の段階に応じた言語能力の育成が図られるよう、国語科を要としつつ教育課程全体を見渡した組織的・計画的な取組が求められる」とあります。寒川町の小・中学校では、言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいるところです。引き続きこのような取組の目的を教師と児童・生徒で共有し、児童・生徒が自分の考えを文章等で表現することの大切さを実感できる学習を充実させていくことが大切です。

【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(36)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	38.6	43.7	13.3	3.2	1.2			82.3		0.0	0.0
令和4年度	28.8	44.2	20.7	5.0	1.0			73.0		0.0	0.2
令和3年度	28.3	43.9	23.1	4.0	0.7			72.2		0.0	0.0



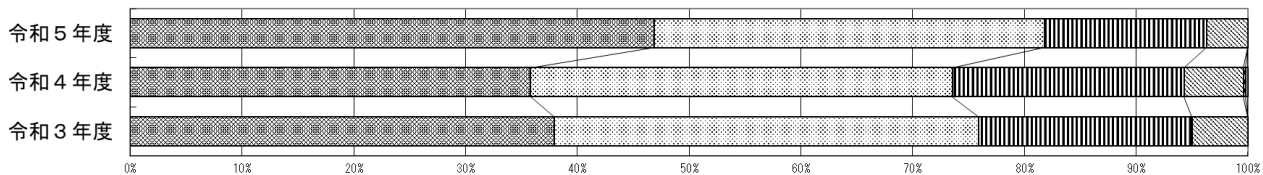
質問番号	質問事項										
(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	25.1	45.9	23.3	5.7				71.0		0.0	0.0
令和4年度	23.1	40.6	27.6	8.4				63.7		0.0	0.2
令和3年度	18.6	43.9	30.5	6.9				62.5		0.0	0.0





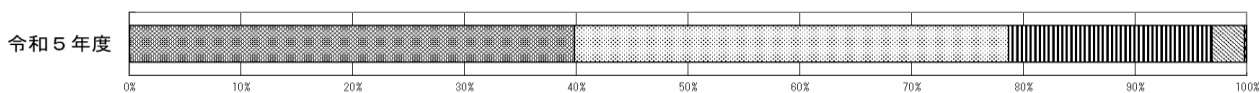
質問番号	質問事項										
(42)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	46.9	34.9	14.5	3.7				81.8		0.0	0.0
令和4年度	35.8	37.7	20.7	5.3				73.5		0.2	0.2
令和3年度	38.0	38.0	19.1	5.0				76.0		0.0	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



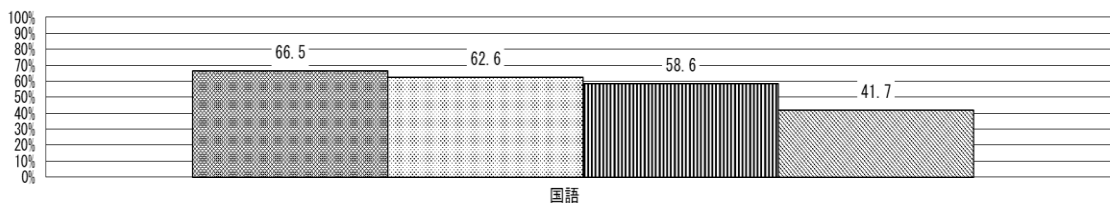
質問番号	質問事項										
(38)	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	39.8	38.8	18.2	2.9				78.6		0.2	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答

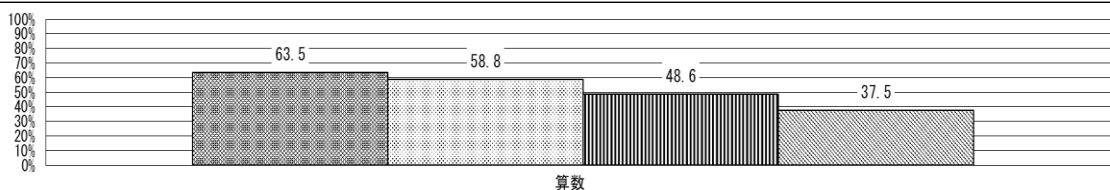


選択肢	児童数	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
			国語 (14問)	算数 (16問)
1 当てはまる	162	39.9	66.5	63.5
2 どちらかといえば、当てはまる	157	38.7	62.6	58.8
3 どちらかといえば、当てはまらない	74	18.2	58.6	48.6
4 当てはまらない	12	3.0	41.7	37.5
その他 (選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	1	0.2	—	—
無回答	0	0.0	—	—

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない



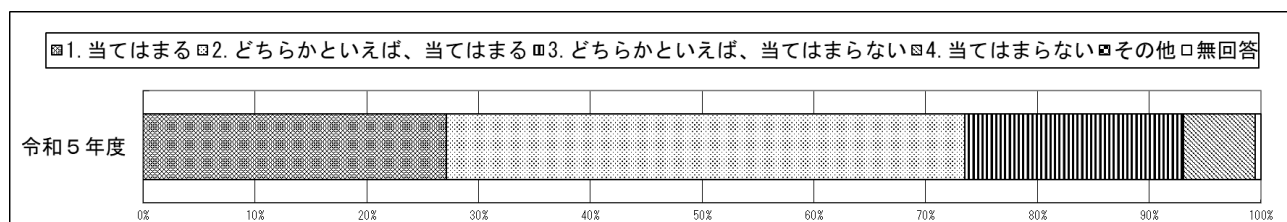
☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない



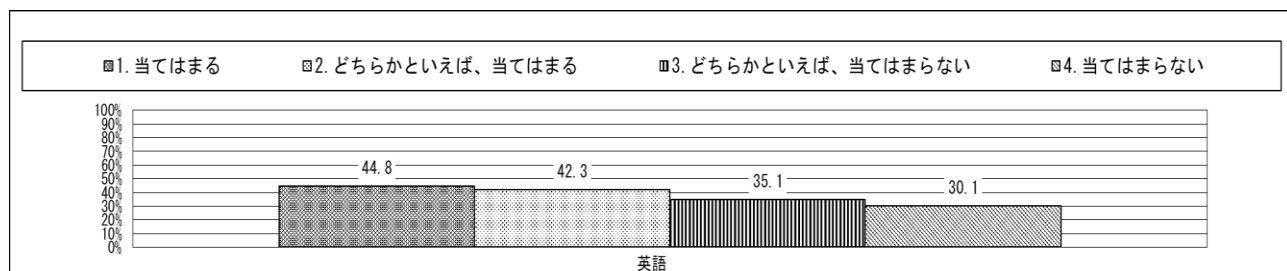
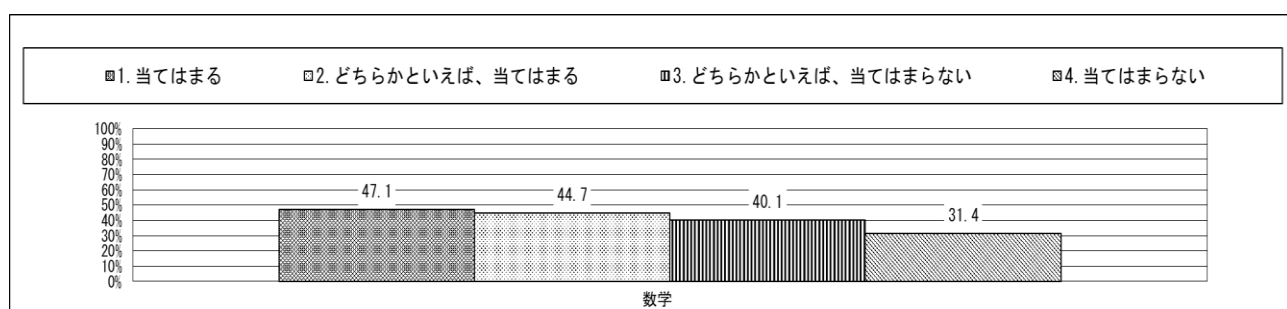
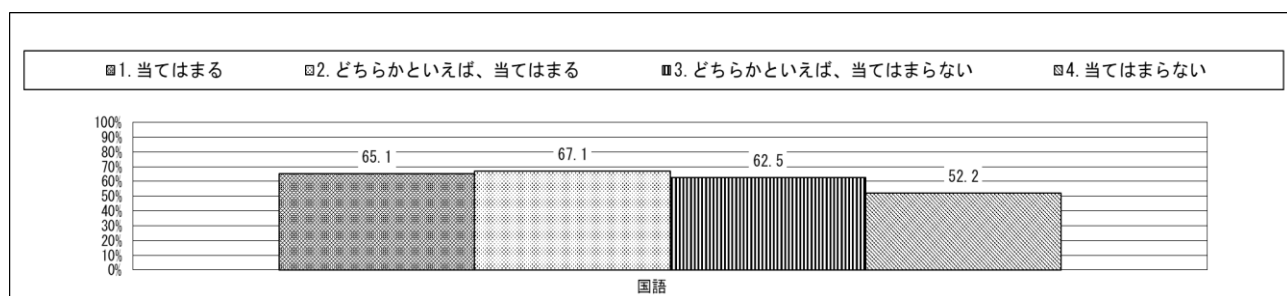




質問番号	質問事項										
(42)	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	27.1	46.4	19.6	6.4				73.5		0.0	0.5



選択肢	生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1 当てはまる	101	27.1	65.1	47.1	44.8
2 どちらかといえば、当てはまる	173	46.4	67.1	44.7	42.3
3 どちらかといえば、当てはまらない	73	19.6	62.5	40.1	35.1
4 当てはまらない	24	6.4	52.2	31.4	30.1
その他(選択肢以外の回答や複数回答されたもの)	0	0.0	—	—	—
無回答	2	0.5	—	—	—



前述の児童・生徒質問紙の結果から、学級活動における話し合いが活発に行われている様子が伺えます。話し合い活動については、コロナ禍の影響があるため単純に過年度との比較はできませんが、今年度は話し合う活動を通して、自分の考えが深めたり広がったりしている児童・生徒が増えていることが伺えます。

また、【児童質問紙（４２）・生徒質問紙（４６）「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」】で示されているように、特別の教科 道徳の授業において、常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えるために、「考え、議論する道徳」の授業が展開されています。このように、授業において話し合い活動が積極的に行われ、他者と交流する機会が意図的・計画的に取り入れられている様子が伝わってきます。学習指導要領に沿って取り組んでいる、授業改善の視点の一つの表れである「主体的・対話的で深い学び」の学習スタイルが定着していることがわかります。

また、【児童質問紙（３８）・生徒質問紙（４２）「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」】では約７０％の児童・生徒が肯定的に回答しています。算数科・数学科は生活科や理科と繋がりがあり、国語科での話し合いや考え方については、全ての教科に生かすことができます。授業の中で、他の教科との関連や繋がりを意識させることが重要です。

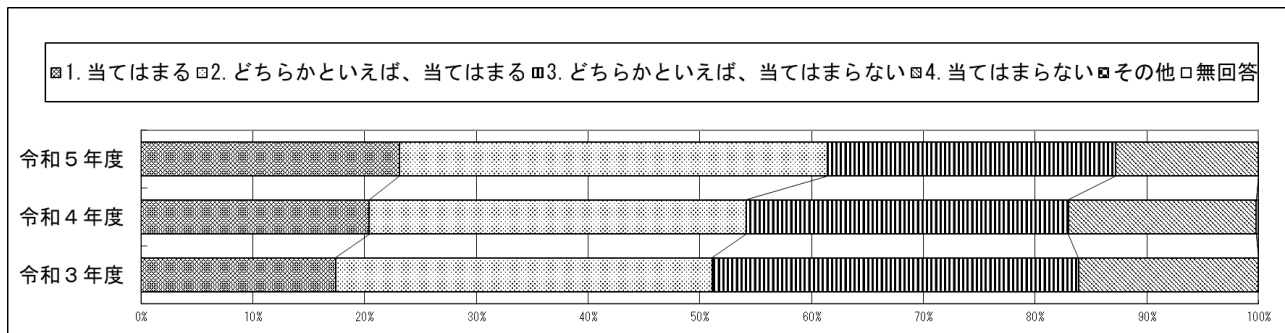
今年度は「資料から読み取った情報を整理し、自分の考えをまとめる」問題が多くありました。今後は、「友達との会話や文章の中の新たな考えを受けて、自分がどう考えを受け止め、調整し、枠を広げていくか」という学びがさらに必要になってきます。教師だけでなく児童・生徒にも「主体的・対話的で深い学び」という学習スタイルが少しずつ馴染み、浸透してきている姿が見えてきている中、多様な手法を検討しながら、様々な教科、時間、場面を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を推進していく必要があります。

また、以下に、国語科に関して【児童質問紙（４３）・生徒質問紙（４７）「国語の勉強は好きだ」】、算数（数学）科に関して【児童質問紙（５１）・生徒質問紙（５５）「算数（数学）の勉強は好きだ」】英語科に関して【生徒質問紙（５９）「英語の勉強は好きだ」】についての結果を示しています。

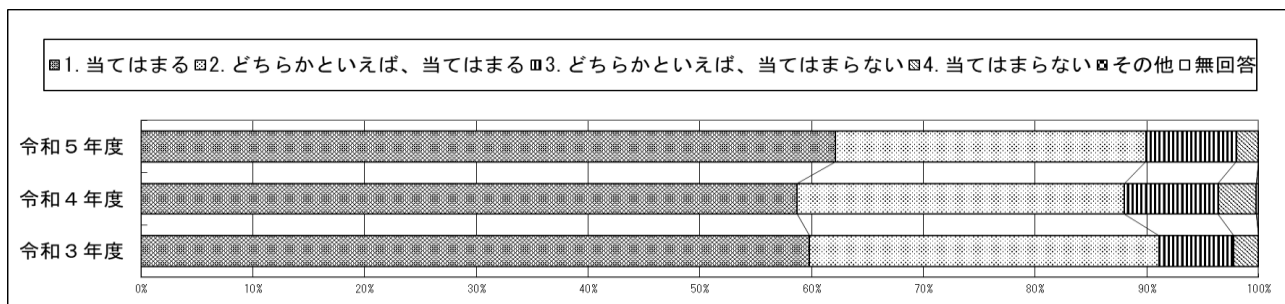
〔国語に関する質問紙調査〕

【小学校】

質問番号	質問事項										
(43)	国語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	23.1	38.3	25.8	12.8				61.4		0.0	0.0
令和4年度	20.4	33.7	28.8	16.8				54.1		0.0	0.2
令和3年度	17.4	33.7	32.8	16.1				51.1		0.0	0.0

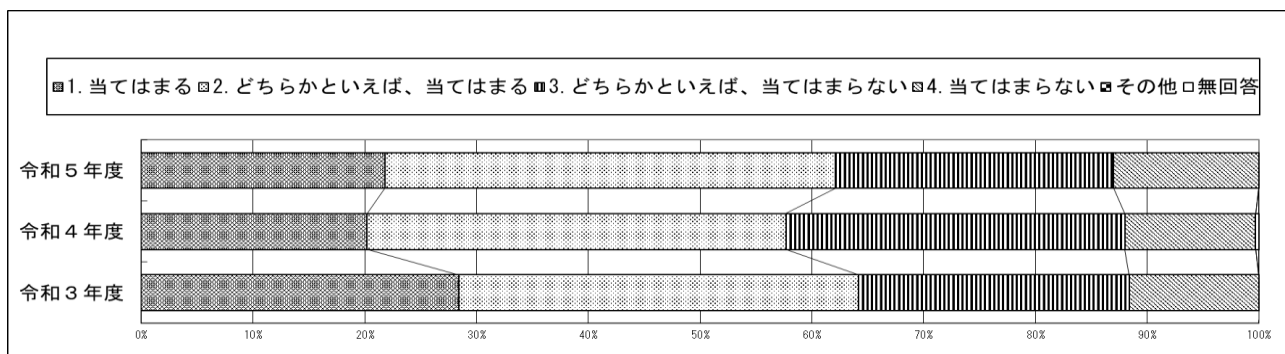


質問番号	質問事項										
(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	62.2	27.8	8.1	2.0				90.0		0.0	0.0
令和4年度	58.7	29.3	8.4	3.4				88.0		0.0	0.2
令和3年度	59.8	31.3	6.7	2.2				91.1		0.0	0.0

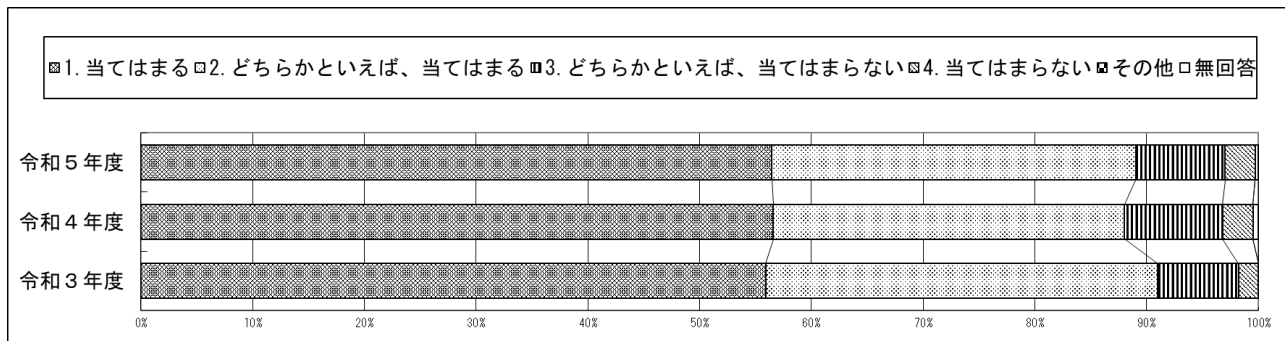


【中学校】

質問番号	質問事項										
(47)	国語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	21.8	40.3	24.9	13.0				62.1		0.0	0.0
令和4年度	20.2	37.5	30.3	11.7				57.7		0.0	0.3
令和3年度	28.4	35.8	24.2	11.6				64.2		0.0	0.0



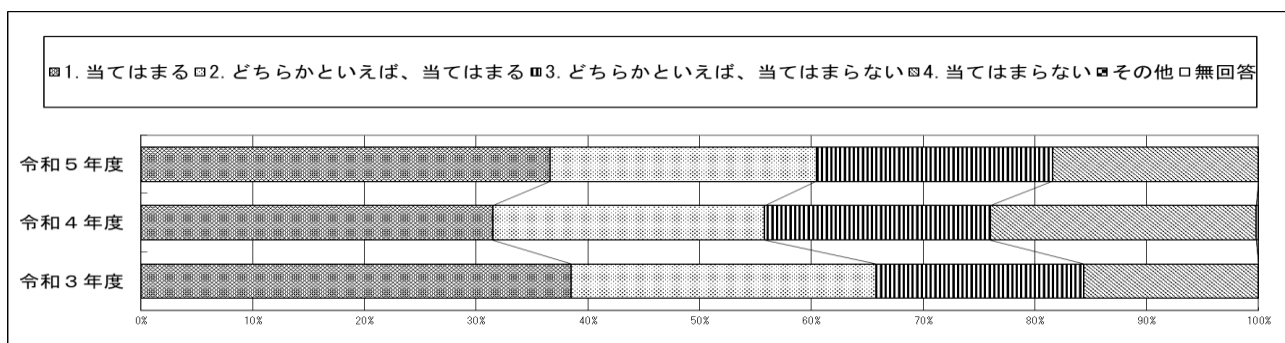
質問番号	質問事項										
(50)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	56.5	32.6	8.0	2.7				89.1		0.0	0.3
令和4年度	56.6	31.4	8.8	2.7				88.0		0.0	0.5
令和3年度	55.9	35.1	7.2	1.8				91.0		0.0	0.0



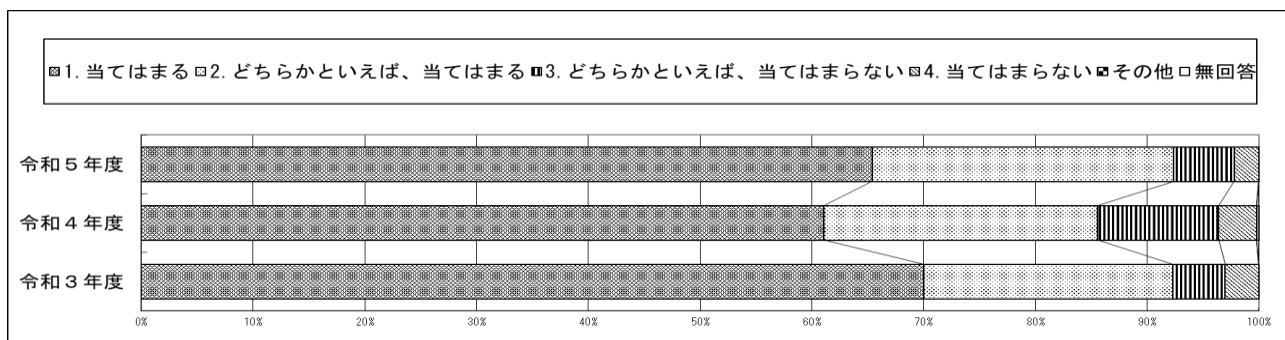
〔算数（数学）に関する質問紙調査〕

【小学校】

質問番号	質問事項										
(51)	算数の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	36.6	23.8	21.1	18.4				60.4		0.0	0.0
令和4年度	31.5	24.3	20.2	23.8				55.8		0.0	0.2
令和3年度	38.5	27.3	18.6	15.6				65.8		0.0	0.0

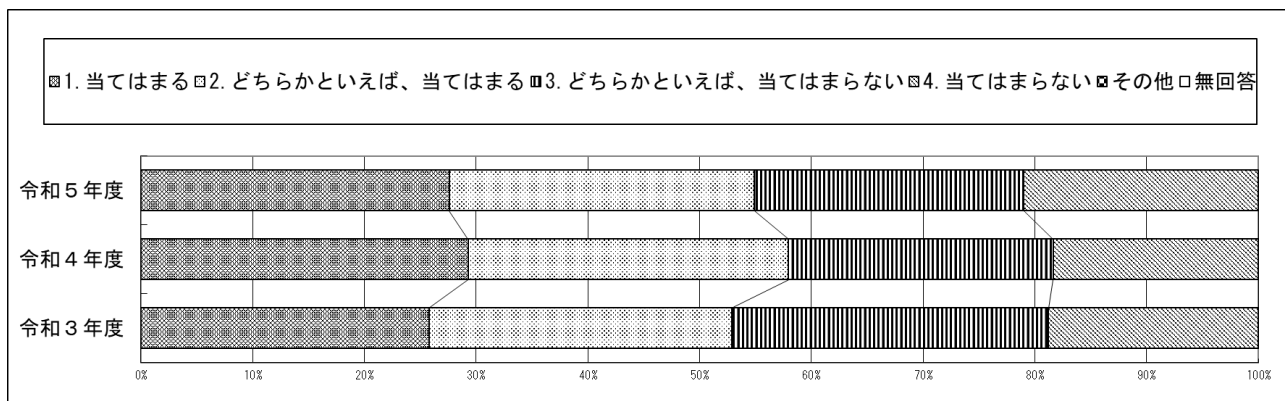


質問番号	質問事項										
(54)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	65.4	27.0	5.4	2.2				92.4		0.0	0.0
令和4年度	61.1	24.5	10.8	3.4				85.6		0.0	0.2
令和3年度	70.0	22.3	4.7	3.0				92.3		0.0	0.0

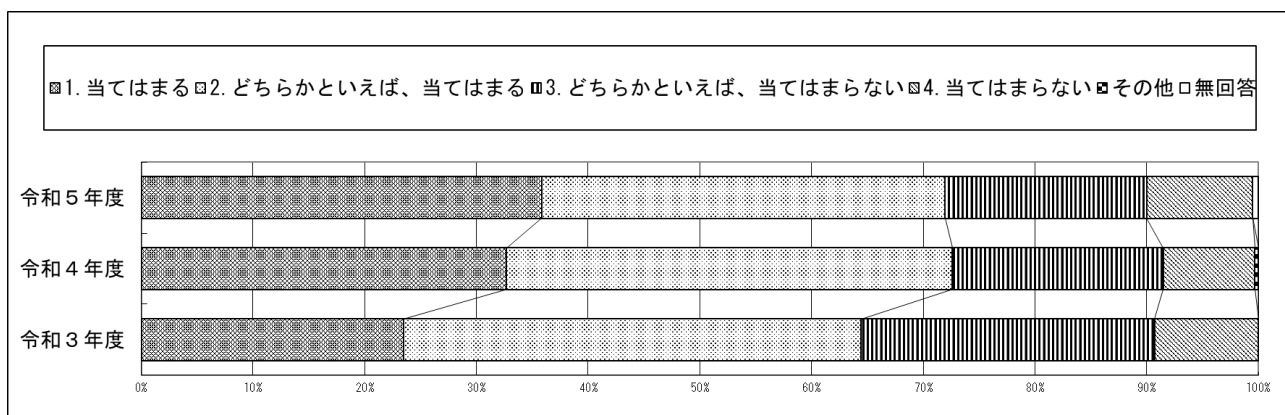


【中学校】

質問番号	質問事項										
(55)	数学の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	27.6	27.3	24.1	21.0				54.9		0.0	0.0
令和4年度	29.3	28.7	23.7	18.4				58.0		0.0	0.0
令和3年度	25.8	27.1	28.4	18.8				52.9		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(58)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	35.8	36.1	18.0	9.5				71.9		0.0	0.5
令和4年度	32.7	39.9	18.9	8.2				72.6		0.3	0.0
令和3年度	23.5	41.0	26.3	9.3				64.5		0.0	0.0



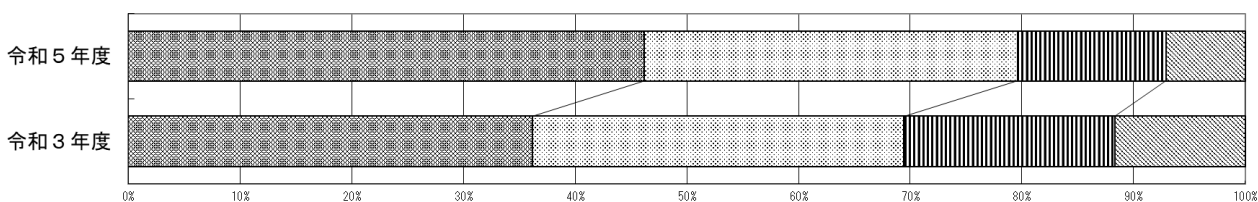


[英語に関する質問紙調査]

【小学校】

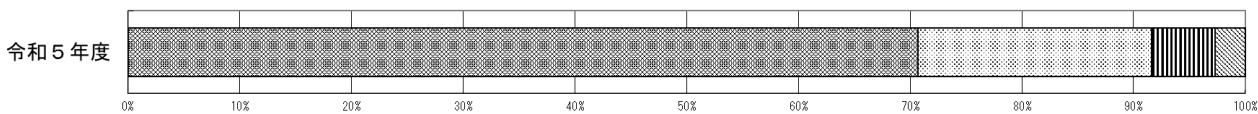
質問番号	質問事項										
(55)	英語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	46.2	33.4	13.3	7.1				79.6		0.0	0.0
令和3年度	36.2	33.3	18.9	11.7				69.5		0.0	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



質問番号	質問事項										
(56)	英語の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	70.8	20.9	5.7	2.7				91.7		0.0	0.0

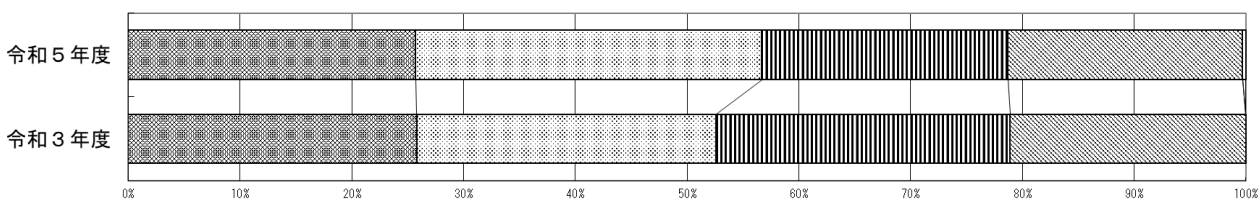
☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答



【中学校】

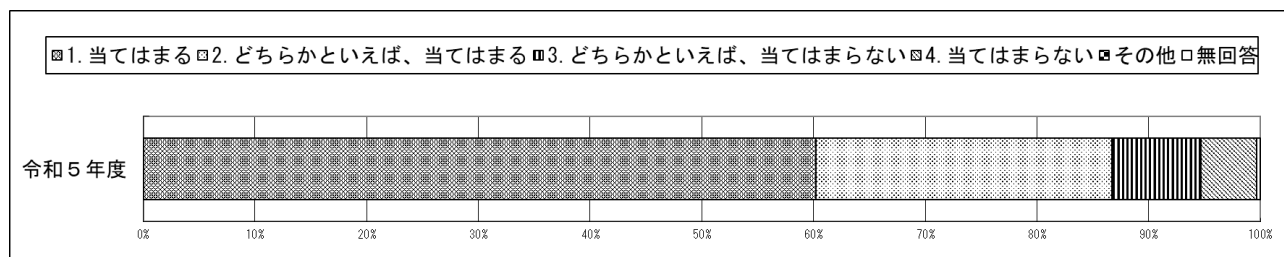
質問番号	質問事項										
(59)	英語の勉強は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	25.7	31.0	22.0	21.0				56.7		0.0	0.3
令和3年度	25.8	26.8	26.3	21.1				52.6		0.0	0.0

☐1. 当てはまる ☐2. どちらかといえば、当てはまる ☐3. どちらかといえば、当てはまらない ☐4. 当てはまらない ☐その他 ☐無回答





質問番号	質問事項										
(62)	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和5年度	60.2	26.5	8.0	5.0				86.7		0.0	0.3



小学校・中学校共に約半数の児童・生徒が教科の勉強が好きであり、また、多くの児童・生徒がその勉強が将来社会に出たときに役に立つと認識していることが結果から伺えます。これが児童・生徒の学びに向かう力の大きな支えになっていると考えられます。英語については、全国平均同様、将来社会に出たときに役に立つと感じている児童・生徒の回答が見られます。英語を学ぶことにより、世界中の人とコミュニケーションをとることができたり、将来の自分の仕事の際に役立ったり、自分の自信になったりと、メリットが多くあります。

また、英語学習の大切なポイントは、英語を好きになることから始まることです。英語の世界に好きなことをみつけて、学習のモチベーションを高めていくことが必要です。英語の単語や文法を覚えることも大事ですが、それ以上に英語でのコミュニケーションを楽しむことで、英語の学習効果が高まります。

寒川町の小・中学校の校内研究では、児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICT機器を最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組んでいます。学習指導要領で求められていることと、寒川町が向かっている方向性は同じです。自分の考えを書く・話すという活動は、学習指導要領における3つの柱の一つである「思考力・判断力・表現力等」の育成につながります。

「考えること（思考力）」を育てていくためには、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取組を進めていき、今後も「自分の考えを話したり、書いたり」という活動を、授業において意図的・計画的に取り入れることが必要となります。このことによって、子どもたちが自分の考えをもつことができるようになると思われまます。

また、今年度の課題として、小学校・中学校ともに「読解力」が挙げられます。図表も含めて内容をしっかり理解し、筆者のねらいを押さえた上で、文章に線を引いたり段落に番号をふったりと大事な部分を意識できるような工夫が必要です。また、内容を理解しなければ、自分の意見を考えられず、書くこともできないため、読み解いた後に要約する、自分の意見を補強する事例を提示して意見を付け加えるといった、読む力と書く力をセットにした取組を行っていくことが必要です。この部分は、学習評価の3つの観点の一つ「主

体的に学習に取り組む態度」の中の「自己の学びを調整する力」に繋がり、今後ICT機器の活用も含め、意見を共有し、さらにそこから自分の考えの枠を広げ、「より深めた考えをしっかりとまとめ、書く」という力を育成していくことが大切です。そして、活用の力をつけるためには、それを支える基礎基本をしっかりと築く必要があります。自分の考えをまとめ、他者と共有し、さらにもう一度自分の考えに戻り、自分自身の考えの変容を感じる中で、そこに出てくる基本的な内容をしっかりと押さえる。このような授業を展開していく事で、今年度の課題の解決、さらに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうと考えます。

「子どもたちにどんな力をつけさせたいのか」という明確なビジョンを教師がもって授業づくりに臨むこと、そして、このような「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを核とした取組を継続的に行うことで、児童・生徒一人ひとりの考える力を伸ばすことができると考えます。